

スマート農業の普及状況

- ・農業のある22市町のうち、半数以上がスマート農業に係る協議会等を設置
- ・協議会等では、地域の営農体系に適した技術の実証試験等の普及活動を展開
- ・普及活動が盛んな地域では、機械等の導入数も増加中

空知管内における普及推進活動の展開状況と導入実績

スマート農業の普及を目的として…

協議会等の普及組織

12 / 22 市町で設置

市町独自事業

12 / 22 市町で実施

17市町が普及推進活動を展開

スマート農業機械等の導入台数
(市町による導入把握数)

R3 2,296台

R2 994台

市町独自事業や「経営継続補助金」等を活用し、GNSSガイダンス・自動操舵システム等の導入が加速化

空知管内におけるスマート農業の広がり

農業者がスマート農業技術の有用性について、営農体系や経営規模に応じて判断できるきっかけが多いほど、スマート農業への関心が高まり普及が加速化する。

実証試験の実施

実証試験を実施しスマート農業がもたらす効果を定量化することで、費用対効果の予測ができる。

農業者間の意見交換

作業の疲労感の軽減等、定性的な導入効果についても、事前に把握し、導入の参考にできる。

活用方法の検証・共有

各地域の通信環境や、農地の整備状況に合わせた、スマート農業技術を検証・共有することで、期待通りの効果を発揮できる。

各地域における協議会等がこれらの活動を担い、スマート農業の普及に貢献

空知管内における普及推進上の課題と今後の推進方針

機器導入状況の全容が不明

市町を超えた情報共有体制が未構築

定量的な実証試験データの不足

普及状況の市町間差が拡大

スマート農業の更なる普及推進には…

空知管内の研究・普及組織やJA等と連携して、空知地域の営農体系に即したスマート農業の効果的な活用方法を検証し、管内全体で情報提供及び共有を深化させる体制づくりが必要。

今後の展開方針

- ・スマート農業に関する新技術や実証データ、導入等に関する事例収集並びにそれらの情報提供及び共有
- ・スマート農業技術の地域への普及拡大及び導入促進